

令和4年度

名塚中学校 いじめ防止基本方針

1 基本理念

いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがある。

本校では、平成27年11月に悲しい出来事が起こった。今後二度とこのような悲しい出来事が起こらないよう、本市学校教育の努力目標である「ともに学び 自分らしく生きる」の下、今年度の学校努力目標を「学び合い 認め合い 高め合う ～『よさ』に気付くための対話的活動を通して～」と定め、生徒同士の関わり合いを大切にした教育活動を行っていくことで、いじめ防止等のための対策を行う。

- 全ての生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにする。
- 全ての生徒がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置したりすることがないように、「いじめは、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である」ことについて、生徒が十分に理解できるようにする。
- いじめを受けた生徒の生命・心身を保護することが特に重要であることを認識し、教育委員会・家庭・地域・関係機関等との連携の下、いじめの問題を克服することを目指す。

2 校内体制

- ・ 校長をいじめ防止対応の責任者とし、「いじめ等対策委員会」を中心として教職員間の緊密な情報交換や共通理解の徹底を図り、一致協力して対応する体制で臨む。
- ・ いじめが生じた際には、学級担任等の特定の教員が抱え込むことなく、多様な専門性をもった職員が多面的に関わるなど、学校全体で組織的に対応する。
- ・ 「いじめ等対策委員会」は、校長・教頭・教務主任・校務主任・生徒指導主事・保健主事・学年主任・教育相談係・養護教諭・スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）・該当生徒担任・部活動顧問・子ども応援委員会コーディネーター等から構成される。

3 教職員一人一人の心構え

- ・ 教職員一人一人が人権意識をもつ。
- ・ 教職員の言動が、生徒を傷つけたり、他の生徒によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。同時に人権意識を高めるための研修等を行う。
- ・ 生徒と触れ合う時間をできる限り多く取る。具体的には、平成28年度より昼食時間を5分多く取ることとした。
- ・ 生徒の話に耳を傾け、親身になって対応し、生徒が何でも相談できる信頼関係を築く。
- ・ いじめ防止対策推進法第2条のいじめの定義に従って、積極的に認知する。
- ・ いじめを見逃したり、気付きながら見過ごしたりして、相談を受けながら対応を先

延ばしにしない。

- ・ いじめ(特に、暴力を伴わないいじめ)は、大人が気付きにくく判断しにくい形で行われることが多いことを認識し、ささいな兆候であっても、早い段階からの確に関わりをもち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知する。
- ・ 暴力的な行為など「目に見えるいじめ」を目撃した場合は、速やかに止めるなどの指導を最優先させる。
- ・ 教育相談や各種アンケートについては、教職員全員の共通理解の上で実施するとともに、その活用についての研修を日常的に行っていく。

4 未然防止の取組

- ・ 学校の教育活動全体を通じ、生徒が活躍でき、他者の役に立っていると実感できる機会を全ての生徒に提供し、生徒の自己肯定感・自己有用感が高まるよう努める。
- ・ 生徒の心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。
- ・ 集団の一員としての自覚や自信を育むとともに、互いの違い、多様性を認め合う。多様性の中で相互に補い合っていていき、互いを認め合える人間関係や学校風土をつくる。

(1) 道徳教育・人権教育

- ・ 道徳教育の実践を通して、豊かな心の育成を図る。特に、「一人一人を大切にする」「相手の立場になって考える」「自分がされたくないことは相手にもしない」「自分の命は大切であり、自分が価値ある存在として認められている」等、他を思いやる心、自他の生命を大切にすることを育むとともに、人権意識に欠けた言葉遣いに対する指導の徹底に努める。

活用資料：「いじめ防止教育プログラム」「人権教育の手引き」「学校における人権教育をすすめるために～実用編～」「人権教育の手引き～みんなで学ぶ人権ワーク集～実践編～」など

(2) 授業づくり

- ・ 生徒の自己肯定感を高めるために、「わかる授業」「一人一人が参加・活躍できる授業」づくりに向け、教師一人一人の授業力向上に努める。
- ・ 自尊感情を身に付け、未来を切り開くことができるたくましい生徒の育成を通じて、教師全員が、学校努力目標の主題である「学び合い、認め合い、高め合う」の実現を目指す。
- ・ 公開授業等により、互いの授業を参観し合う機会を位置付けるよう努め、教科の観点からだけでなく、生徒指導の観点からも授業を参考にし合うようにする。
- ・ 自殺予防についての授業を、学校全体で取り組む。

(3) 集団づくり

- ・ 社会体験や交流体験の機会を計画的に配置し、他の児童生徒や大人との関わり合いを通して、生徒が自ら「人と関わることの喜びや大切さ」に気付いたり学んだりする機会を設定する。
- ・ 単に生徒が何かを体験すればよい、子ども同士が交流を深めればよい、といった意識ではなく、生徒の年齢や発達段階に応じた集団の一員としての自覚や態度、資質や能力を育むために、多様性を認め合い、「友達のよさに目を向け、積極的

に認め合う活動」「グループや学級全体で助け合い、共通目標を達成する活動」など、生徒の創意や工夫に富んだ主体的な活動の場や機会を設定する。

《学校全体での取り組み・活動》

「瞑想の時間」、「地域の方々との交流会」、「e-ネット安心講座」、
「体育大会」、「合唱コンクール」、「人権講演会」、
「生徒会・委員会活動」、「3年生を送る会」、他者との関わり合いを取り入れた
互恵的な学習活動 など

《各学年での中心となる取り組み・活動》

【1年生】 「学年レク」、「校外学習」、「職場訪問学習」
【2年生】 「学年レク」、「稲武野外学習」、「職場体験学習」
【3年生】 「学年レク」、「修学旅行」、「進路学習」

※ 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止として、例年実施していた行事等を実施しない、もしくは延期、内容を変更しての実施となる可能性がある。

※ 昨年度は「地域の方々との交流会」、第2学年「稲武野外学習」、「職業体験学習」は中止、第1学年「職場訪問学習」、「合唱コンクール」は内容を変更して、「体育大会」は短縮で実施した。

(4) 生徒会の取り組み

- ・ 平成27年度では、「絆の日プロジェクト」として有志を募り、悲しい出来事を二度と起こさないという誓いの思いを込めた歌『ほら、笑おう』を制作した。
- ・ 生徒会の取り組みにおいて、「なごやINGキャンペーン」等の機会を生かし、生徒自身が、いじめの問題を自分たちの問題として受け止め、そして、自分たちでできることを主体的に考えて行動できるよう働きかける。
- ・ 生徒集会を、生徒が主体となって心の交流を深め、互いの絆を強める集会と位置付けて実施する。

5 早期発見の取り組み

学級や部活動など、学校生活すべての場において、子どもをきめ細かく見守る。いじめの早期発見のために、日常的な観察とともに、質問紙によるアンケート調査、教育相談等における面談やスクールライフノート、生活ノートの活用を通して計画的に行い、日常の生徒の様子を把握する。また、子ども応援委員会と定期的に情報交換を行うことで早期発見に努める。

(1) 日常的な観察

- ・ 日頃の生徒との触れ合い、生徒一人一人の交友関係や行動等を把握するとともに、思考の特徴をよく理解するよう努め、いじめの兆候、生徒が示すサインを見逃さないようにする。
- ・ 主任連絡会、生徒指導委員会を週に1回行い、情報の共有や意見交換を常に行う。

(2) 「WEBQU よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」

- ・ 年2回の実施により、学級集団作りに活用する中で、結果として表れる「学級で

の満足度」「学校生活における意欲」「ソーシャルスキルの定着具合」を基に、状況によって即時に、生徒個々へ対応する。そして、スクールカウンセラーを中心に内容の分析を行い、生徒の心の揺れをつかみ次第、即対応する。

(3) 学校生活アンケート調査

- ・ 学期に1回、記名式の「学校生活アンケート」の実施により、誰が被害者か加害者かとは関係なく、いじめがどの程度起きているのかを定期的に把握し、未然防止の取組の評価・改善につなげる。そして、スクールカウンセラーを中心に、生徒の心の変化をまとめ、教師全員で共通理解の下、対応する。

(4) 緊急的な記名式のアンケート調査

- ・ 重大事態が生じたときなど、事実関係を把握する必要がある場合は、緊急的に記名式でアンケート調査を行う。

(5) 教育相談

- ・ いじめの被害者は「全力で守る」という学校・教職員の姿勢・決意を示す。他の生徒のいじめについて見聞きした場合は、勇気を持って相談するよう呼び掛けるとともに、情報の発信元は絶対に明かさないと伝えておく。
- ・ (2)(3)でのアンケート調査の結果等を基に、全ての生徒を対象として、年2回の教育相談週間を設ける。
- ・ 必要な生徒には、適宜教育相談を個別に実施する。
- ・ 生徒が希望する場合は、担任以外の教職員やスクールカウンセラーへの相談も可能とする。
- ・ 教育相談前に、個々の学校生活の様子や思いを知ることができるようにアンケートを行い、教育相談に役立てる。
- ・ 教育相談の活用について、教師全員で研修の機会を断続的にもつ。

(6) スクールカウンセラーの活用

- ・ 生徒や保護者の悩みに対応できるようスクールカウンセラーが常駐する。
- ・ 教師だけでなく、専門の知識をもったスクールカウンセラーの視点からも生徒を見守ることにより、生徒の心の変化を見逃さず、心のケアを行っていく。
- ・ 気軽に相談できる存在があることを知らせるために、年度当初に、新入生を対象に、短時間でスクールカウンセラー等との面談を実施する。また、転入時においては、学級担任以外にスクールカウンセラーや養護教諭などに個別に引き合わせるようにする。
- ・ WEBQ U、学校生活アンケート調査など各種アンケートの集計、分析を行い、生徒の心の変化をとらえ、その後の対応および指導教師への助言を行う。

(7) 保護者・地域との連携

- ・ 保護者に対しては、日頃から生徒のよい点や気になる点など、学校の様子について連絡するように努めるとともに、生徒について気になることがあれば速やかに学校に連絡していただくよう依頼しておく。
- ・ 地域に対しては、「いじめ・問題行動等防止対策連絡会議」の場等を活用し、生徒について気になることがあれば速やかに学校に連絡していただくよう依頼する。
- ・ 学校の様子を、ホームページや学年通信などで伝えていく。
- ・ 学校行事（体育大会、合唱コンクール、授業公開日など）のアンケートで保護者

の意見に耳を傾け、教育活動に生かしていく。

(8) 相談機関紹介カード「あったかハート」の配布

- ・ 年度当初に、全生徒に配布し、各相談機関について周知する。
- ・ 生徒手帳や毎日使用するかばん等に入れておくなど、いつでも見ることができるよう指導する。

(9) SNS相談

- ・ 相談する先が24時間365日あることを全生徒に周知し、アクセスコードを配付する。また、学習者用タブレット端末を使って、SNS相談の体験活動をさせる。

(10) 今年度における主なアンケートの実施予定日

- ・ 教育相談アンケート 5月6日(金) 11月2日(水)
- ・ WEB Q U 6月6日(月) 10月14日(金)
- ・ 学校生活アンケート 6月24日(金) 11月21日(月) 2月17日(金)

6 いじめに対する措置(重大事態・警察との連携を含む)

- ・ 特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応する。
- ・ 教職員全員の共通理解の下、保護者の協力を得て、教育委員会・関係機関等と連携し、対応に当たる。とりわけ、児童虐待や重大ないじめ、自死などにつながる恐れのあるハイリスクな要因を抱えた生徒に関しては、早期発見・早期対応の上で、関係機関との連携を図る。
- ・ 生徒の個人情報の取扱い等、プライバシーには十分に留意する。

(1) いじめの発見時や相談・通報を受けたときの対応

- ・ 遊びや悪ふざけ、複数で一人を囲んでいる状況など、いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めたり注意したりする。
- ・ 生徒や保護者からの訴えに対しては、軽視したり後回しにしたりせず、真摯に傾聴し、ささいな兆候であっても、いじめの疑いがある行為には早い段階からの確に関わりを持つようにする。その際、いじめられた生徒やいじめを知らせてきた生徒の安全を確保する。
- ・ 発見したり通報を受けたりした教職員は、一人で抱え込まず、速やかに「いじめ等対策委員会」に報告し、情報を共有する。
- ・ 「いじめ等対策委員会」を中心として、速やかに関係生徒から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行い、いじめの認知・判断をする。
- ・ 以下のような「重大事態」については、速やかに教育委員会に報告し、連携を図りながら対応に当たる。

① 「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある」

- ・ 生徒が自殺を企図した場合
- ・ 身体に重大な傷害を負った場合
- ・ 金品等に重大な被害を被った場合
- ・ 精神性の疾患を発症した場合

② 「相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある」

- ・ 30日を待たず、1週間をめぐりに連絡し概要を報告する

※ 「児童生徒や保護者からいじめにより重大な事態に至ったという申し立てがあったとき」

- ・ 状況に応じて、所轄警察署・法務局・児童相談所など、関係機関との連携を図る。

(2) いじめられた生徒又はその保護者への支援

- ・ 「複数の教職員で見守る」「いじめた生徒を別室で指導する」など、徹底して守り通すことや秘密を守ることを伝え、安心して学校生活を継続するよう伝える。
- ・ 上記の対応によっても、いじめられた生徒が学校を欠席せざるを得ない状況が続く場合には、学習の支援など、いじめられた生徒及びその保護者の心情に寄り添いながら支援する。その際、「出欠席の取り扱い」「内申も含めた成績への影響」について、いじめられた生徒に不利益が生じないことを初期段階から説明するよう配慮する。
- ・ 保護者には、電話連絡だけでなく、家庭訪問等により、その日のうちに事実関係を伝える。
- ・ 状況に応じて、子ども応援委員会・スクールカウンセラーや外部専門家の協力を得る。
- ・ いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、折りに触れ必要な支援を行うことが大切である。

(3) いじめた生徒への指導又はその保護者への助言

- ・ いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。
- ・ 迅速に保護者に連絡し、事実に対する保護者の理解や納得を得た上、学校と保護者が連携して以後の対応を適切に行えるよう、保護者の協力を求めるとともに、保護者に対する継続的な助言を行う。
- ・ いじめた生徒が抱える問題など、いじめの背景にも目を向け、当該生徒の健全な人格の発達に配慮する。
- ・ いじめの状況に応じて、心理的な孤立感・疎外感を与えないよう一定の教育的配慮の下、「特別の指導計画による指導」のほか、「教育委員会との判断による出席停止」、「警察との連携による措置」を含め、毅然とした対応をする。

(4) いじめが起きた集団への働きかけ

- ・ 傍観者に対しては自分の問題として捉えさせ、観衆に対してはいじめに加担する行為であることを理解させる。
- ・ 学級全体で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を行き渡らせるようにする。
- ・ いじめの解決とは、謝罪のみで終わるものではなく、双方の当事者や周りの生徒全員を含む集団が好ましい集団活動を取り戻すことをもって判断するようにする。
- ・ 全ての生徒が、集団の一員として、互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくりを進めていく。

(5) ネット上のいじめへの対応

- ・ 名誉毀損やプライバシー侵害等、不適切な書き込み等については、教育委員会に一報するとともに、所轄警察署・関係機関に相談し、直ちに削除する措置を取る。
- ・ 生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに所轄警察署(西警察署)に通報し、適切に援助を求める。
- ・ 警察、法務局、関係業者等の専門家を講師とした講演会を実施したり、相談機関の窓口や、関係機関が実施する取組を周知したりする。
- ・ パスワード付きサイトやSNS、スマートフォンや携帯電話のメールを利用した

いじめなどについては、より大人の目に触れにくく、発見しにくいいため、学校における情報モラル教育の充実を図る。今年度も「e-ネット安心講座」を実施し、インターネットを安全に使用方法を学ぶ。

- ・ 保護者に対しても、情報モラルに関する講演会等の実施や、「情報モラル啓発資料」の活用を通して、現状について理解を求めるとともに、家庭における「スマートフォンや携帯電話の使用に関する約束事」を決めておいていただくよう、折りに触れて依頼する。

7 子ども応援委員会との連携

必要に応じて、子ども応援委員会コーディネーター(教務主任)が中心となって子ども応援委員会との連携を図り、未然防止及び早期発見の取り組みを進めるとともに問題の解決に努める。

子ども応援委員会との連携については、生徒、保護者、地域、教師、それぞれが発信した内容をきっかけとし、学校の指導が効果的に行われるよう工夫していく。

8 校内研修の実施

いじめの防止等のための対策に関する校内研修を実施し、教職員の資質向上に努める。

アンケートや教育相談等についての研修や、生徒の共通理解を図るための学習会は継続的に行う。

9 学校評価の実施

いじめの防止等のための対策に関わる取り組み等について自己評価を行い、学校関係者評価と合わせて、その結果を公表する。

◆ いじめが発生した場合の対応の流れ ◆

直接目撃した
(暴力行為、からかい、死ね等の言葉など)

通報・相談を受けた
(本人、他の児童生徒、保護者などから)

その場で制止・指導
軽視・見て見ぬふりしない

真摯に傾聴
軽視・後回しにしない

早期発見・早期指導、関係職員によるチームとしてのきめ細やかな指導

共通理解を図りながら解決するために、週に1回の主任連絡会、生徒指導委員会の開催

「いじめ等対策委員会」へ、事実を迅速・正確に報告
校長・教頭・教務主任・校務主任・生徒指導主事・保健主事・
学年主任・教育相談係・養護教諭・担任(顧問)・SC・SSWなど

◆情報の共有

◆対応策の検討・協議・決定

◆関係生徒に関する情報収集

◆関係生徒への事情聴取

◆いじめの有無の確認

いじめの認知・判断

重大事態

ネット

- ◇病院搬送等応急処置
- ◇教育委員会への一報
- ◇子ども応援委員会との連携
- ◇警察・法務局等への相談通報
(校長・教頭)
- ◇緊急アンケートの実施
(教務主任・生徒指導主事)
-
- ◇教育委員会への一報→委託
業者への相談
- ◇警察・関係機関への相談通報

- ◆ 被害・加害生徒の保護者への連絡・家庭訪問(担任・教務主任)
- ◆ 被害生徒の安全確保・心のケア(養護教諭・スクールカウンセラー)
- ◆ 加害生徒への指導・別室指導・心のケア等などの措置(学主・生指)
- ◆ 観衆・傍観者への指導(学年主任・生徒指導主事)
- ◆ 状況に応じた謝罪等の場の設定(教頭)
- ◆ 客観的な事実(聞き取りの内容等)を、時系列で正確に記録
- ◆ 子ども応援委員会と連携(子ども応援委員会コーディネーター)

一定の解消

継続指導・経過観察

再発防止・未然防止の取り組み

令和4年度 名塚中学校 年間計画

学期	月	学校行事・特別活動	生徒指導・教育相談	学活・総合・保健	道徳	会議・校内研修
1	4	入学式・始業式	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QUの結果を活用した前年度からの引き継ぎ(気になる子ども・特別に支援が必要な子ども) 全職員で児童生徒理解(友人関係・家族関係) 		<ul style="list-style-type: none"> A 主として自分自身に関すること B 主として人とのかかわりに関すること C 主として集団と社会とのかかわりに関すること D 主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること 	いじめ対策委員会① 研修① 生徒理解
	5	修学旅行(3年) 教育相談 中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談アンケート(学校作成)① 	<ul style="list-style-type: none"> 自殺予防教育授業 ①パンフレットチェック 	1年：自分を知らう A いいとこ四面鏡 B やっぱり敬語が C 必要なわけ D キャンプの思い出 など	いじめ対策委員会②
	6	修学旅行(3年) 期末テスト	<ul style="list-style-type: none"> 第1回WEBQU実施 ヘルプシグナルの把握と対応 全職員で情報共有 第1回WEBQU結果の把握と支援の方法を全職員で共通理解 子ども応援委員会との情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 命を大切にする取組 自殺予防教育授業 ①ストレスマネジメント 	2年：自分を見つめ伸ばす A 漂流脱出ゲーム B キャンプへ行こう！ C など	いじめ対策委員会③ 研修② よりよい学習環境に向けて WEBQUの結果の活用
	7	保護者会 終業式	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート(学校作成)① アンケートの情報共有 ケアが必要な生徒への対応 保護者と情報共有 第1回WEBQU返却 		3年：今の私、中3の自分 A 雨の日の届け物 B 二通の手紙 C など	いじめ対策委員会④ 中ブロックいじめ問題行動等対策会議①
8	部活動 学年出校日	<ul style="list-style-type: none"> 各種校外研修での報告 子ども応援委員を交えた事例検討会 部活動や出校日を中心に様子を把握 			(研修)③ 研修報告・事例検討会	
2	9	始業式 3年実力テスト 1・2年 名塚トライアル 稲武野外学習(2年) 体育大会	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート(学校作成)② アンケートの情報共有 ケアが必要な生徒への対応 		1年：自分を知らう4 A ライバル B ひびけ歌声 C 私は何のために D 生きているの など	いじめ対策委員会⑤
	10	中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> 第2回hyper-QU実施 ヘルプシグナルの把握と対応 全職員で情報共有 名塚INGキャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> 自殺予防教育授業 ②パンフレットチェック 生徒会による取組 名塚INGキャンペーン 	2年：生涯の友 B 合唱コンクール C に向けて D 父の強さ など	いじめ対策委員会⑥
	11	合唱コンクール 教育相談 保護者会(3年) 期末テスト	<ul style="list-style-type: none"> 第2回WEBQU結果の把握と支援の方法を全職員で共通理解 子ども応援委員会との情報共有 教育相談アンケート(学校作成)② 名塚INGキャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> 命を大切にする取組 e-net安心講座 薬物乱用防止教室 救命救急講習会 自殺予防教育授業 ②ストレスマネジメント 	3年：初恋物語 B 一人ひとりが輝く C 集団づくり D 道はいつも ひらかれている など	いじめ対策委員会⑦ 研修④ 関係機関との連携 WEBQUの結果の活用
	12	人権週間 保護者会 終業式	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と情報共有 第2回WEBQU返却 	人権週間についての講演会		いじめ対策委員会⑧
3	1	始業式 3年実力テスト 1・2年 名塚トライアル 3年保護者会	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート(学校作成)③ アンケートの情報共有 ケアが必要な生徒への対応 		1年：美しい母の顔 B 思いやりの心 C あるレジ打ちの女王 D など	いじめ対策委員会⑨
	2	(入試) 1・2年学年末テスト 3年生を送る会	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 自殺予防教育授業 ③ストレスマネジメント 	2年：母と私と台所 B 愛されるデンさん C 感謝と畏敬の念 D など	いじめ対策委員会⑩ 研修⑤ 年度末反省会 中ブロックいじめ問題行動等対策会議②
	3	卒業式 修了式	<ul style="list-style-type: none"> WEBQUなど小中情報交換 		3年：僕の夢 C 連続性・有限性・命の大切さ D など	いじめ対策委員会⑪ 小中連絡会